

## 年間学習指導計画 日本史B（第2学年・普通科）

科名	地理歴史科（日本史B）	教科書名	詳説日本史B	発行社	山川出版社	単位数	3
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
到達目標に向けての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原始・古代から近世に至る歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて、政治・経済・社会・文化・国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で大きく把握させる。また、それと同時に各時代の特色とその変遷についての考察を通じて、日本の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深めさせる。</li> <li>・ 年表・地図などの多様な資料を活用し、自ら資料を収集・選択する力やそれを批判的に読み取って解釈し考察に活かす力、その成果を年表や地図など自ら作成した資料の形で適切に表す力など、資料活用能力や表現能力を高めさせる。また、視聴覚教材・実物教材の提示や博物館・資料館訪問の推奨などを行い、歴史に対する興味関心を高めさせる。</li> <li>・ 地域社会の歴史を日本全体の歴史の展開と結びつけて扱うことで、地元地域の歴史や文化への興味関心高め、その創造や発展に尽力した先人を尊重する態度を育む。その際、文化の特色、人々の生活文化の諸相、都市や村落の在り方、他地域との交流などに着目して、地域の特色や地域間のつながり等の理解を通じて、地域社会と国家の歴史的な関わりについて考察させる。</li> </ul>						

評価の観点	評価の内容	評価の対象
関心・意欲・態度	日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	観察、発言内容、生徒との対話、ノート、ワークシート、レポート、自己評価
思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ構成に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	発言内容、ノート、ワークシート、考査問題
資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	ノート、ワークシート、レポート
知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	生徒との対話、小テスト、考査問題

月	単元・項目	時数	単元を貫く目標	主な学習活動	評価方法
4月	◆歴史と資料 第1章 日本文化のあけぼの	12	生徒が様々な資料に触れて活用することで、歴史資料の果たす役割や重要性に気づき、歴史への興味関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な歴史資料に触れ、歴史を考察する基本的な方法を理解し、関心を高める。</li> <li>・ 原始社会の特色と変化、古代国家形成までの過程について理解を深める。</li> <li>・ 各時代の文化の特色と背景について、大陸文化との関係に着目して考察する。</li> </ul>	行動観察 ノート ワークシート 発言内容 小テスト
	1 文化の始まり				
	2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権				
5月	第2章 律令国家の形成	18	生徒が飛鳥・奈良時代の学習を通して、地域社会の歴史と日本全体の歴史との関わりについて意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 律令体制の成立とその過程、奈良時代に至る政治の動向について考察する。</li> <li>・ 遣隋使、遣唐使による諸制度の摂取、国家による仏教の興隆などに着目し、天平文化などに見られる国際性とその成立の背景などを考察する。</li> </ul>	行動観察 ノート ワークシート 発言内容 小テスト
	1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道				
6月	3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安王朝の形成				前期中間考査

7月	第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	12	生徒が平安時代の学習を通して、政治・経済・社会・文化・国際環境など歴史を構成する要素を踏まえた総合的な考察やそれに基づく歴史的思考力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荘園・公領の動きや武士の台頭などに着目し、摂関政治の展開や院政の成立など古代国家の推移について考察する。</li> <li>・国風文化の特徴や成立の背景について、遣唐使の派遣停止や貴族の生活との関係に着目して考察する。</li> </ul>	行動観察 ノート ワークシート 発言内容 小テスト
8月・9月	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	23	生徒が鎌倉時代の考察を行うことで、資料から必要な情報を読み取り、歴史的事象に対する自分の考えをまとめ、発表する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府の成立と幕府政治の展開について、公武関係の変化や社会的・経済的背景と関連付けて理解する。</li> <li>・仏教勢力の新しい動きや武士や庶民が中心となる文化の形成について、その成立の背景や意義を考察する。</li> <li>・東アジアとの交流が政治・経済・文化にどのような影響を与えたか考察する。</li> </ul>	行動観察 ノート ワークシート 発言内容 小テスト 前期期末考査
10月					
11月	第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	15	生徒が地図資料を用いて学習を進めることで、歴史や文化を地理的条件と関連付けて多面的・多角的に考察する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町幕府の成立と政治の展開、中世社会の変化について、南北朝の動乱や応仁の乱と下剋上などに留意して考察する。</li> <li>・武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽に着目して、室町時代の文化の特色とその成立の背景について考察する。</li> </ul>	行動観察 ノート ワークシート 発言内容 小テスト 後期中間考査
12月	◆歴史の解釈 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	25	生徒が近世国家の成立と展開をヨーロッパ諸国や東アジア世界との交流と関連付けて考察することで、空間的な関わりや世界史的な観点から日本の歴史や文化を捉える力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的事象の複数の解釈について、それぞれの根拠や論理を踏まえて、自分の考えを説明する。</li> <li>・織豊政権や江戸幕府によって、近世国家が成立していく過程や近世社会の特質について考察する。</li> <li>・ヨーロッパ諸国やアジア各地が相互に交流する中で、日本が受けた文化的影響や外交体制の変化について考察する。</li> <li>・儒学が果たした意義や社会的役割に着目し、法・制度による支配秩序の形成という観点から幕藩体制の特質を考察する。</li> </ul>	行動観察 ノート ワークシート 発言内容 小テスト レポート 学年末考査
1月					
2月・3月					

合計時間数 105 時間

# 単元指導計画

単元の名前 「 鎌倉文化 」

## □単元の目標

鎌倉時代の仏教に見られる多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察させるとともに、武士や庶民を題材にした文学や絵巻物などに着目して、平安時代と比較しながら文化に新しい気運が生まれたこととその背景を考察させる。

## □単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
鎌倉時代の文化について関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとしている。	鎌倉時代の仏教・文学・絵巻物・彫刻などについて、平安時代の文化と比較しながら多面的・多角的に考察し、その特徴や背景をまとめていく。	鎌倉新仏教など鎌倉時代の文化に関する文献、写真、地図などの諸資料を活用して、有用な情報を適切に選択して読み取り、まとめている。	相次ぐ戦乱や社会不安、武家社会の成立や庶民の活動の活発化などを背景に、鎌倉新仏教など文化に新しい気運が生まれたことについて理解している。

## □指導と評価の計画

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
間時 1 目	<b>【鎌倉新仏教】</b> ○資料を参考に、鎌倉新仏教の特徴をまとめ、発表する。 ○一遍の布教を題材に、鎌倉新仏教の社会的・思想的意義を考察する。		●	●		・諸資料から、鎌倉新仏教の特徴について読み取ることができる。 ・一遍の布教に関する資料を通して、旧仏教との比較をしながら、鎌倉新仏教の社会的・思想的意義について考察することができる。
2 目	<b>【新仏教のまとめと旧仏教の革新】</b> ○鎌倉新仏教が支持された理由を1つの宗派を挙げて説明する。 ○鎌倉新仏教の影響を受け、旧仏教勢力が新しい動きを見せることについて理解を深める。	●	●		●	・これまで学習した開祖の教えや宗派の特徴を踏まえ、鎌倉新仏教が民衆に支持されていた理由について論述することができる。 ・教義の復興や社会事業に尽力するなど、旧仏教勢力に改革の気運が生まれることについて、関連する人物や社会的影響を整理し、知識として身につけている。
間時 1 目	<b>【文芸・絵画・建築・彫刻など】</b> ○鎌倉時代の文学・絵巻物・建築・彫刻について、平安時代と比較しつつ、社会の変化を踏まえて、その特徴について考察する。		●		●	・武士や庶民を題材にした文学や絵巻物、武士の時代を反映した力強い建築や彫刻を通して、武家社会の成立を背景に、文化に新しい気運が生まれたことについて考察し理解を深めている。

# 学 習 指 導 案

日 時	平成26年11月13日 (木) 第6限	指導学級	2年〇組 (〇〇名)	指導者	〇〇〇〇
教科(科目)	地理歴史科・日本史B	単元名	鎌倉文化		
教科書	詳説日本史B (山川出版社)	副教材	改訂版詳録新日本史史料集成 (第一学習社) 最新日本史図表新版 (第一学習社)		
本時の主題	鎌倉新仏教		本時 (1時間目 / 3時間)		
本時の目標	一遍に関する資料を通して、なぜ鎌倉新仏教が多くの人に信仰されるようになっていったのかを考察する。				
評価規準	資料活用の技能		思考・判断・表現		
※本時は4観点のうち右の2観点を評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークを通して、資料からそれぞれの開祖の教えや宗派の特徴を読み取ることができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一遍の布教方法や遊行の足跡についての資料から情報を読み取り、それを通して鎌倉新仏教の社会的・思想的意義を考察することができる。</li> </ul>		

過程	指導内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題の確認</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフから、現代の日本においても鎌倉新仏教が多くの人に信仰されていることを読み取る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>本時の課題</b></p> <p>なぜ鎌倉新仏教は、多くの人々に信仰されるようになったのか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1 宗教に関するグラフ①・②を使用</li> <li>○奈良・平安仏教の特徴を確認</li> </ul>
展	<p>①鎌倉新仏教 (その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浄土宗</li> <li>浄土真宗</li> <li>日<small>ち</small>宗</li> <li>臨済宗</li> <li>曹洞宗</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>Question1</b></p> <p>①鎌倉時代に登場した新しい宗教は何か？また、それを広めた人物は誰か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年表より6人の開祖とその宗派を探す。</li> </ul> <p>②鎌倉新仏教 (念仏・題目系) の特徴は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料1～3の1つを読み、それぞれの開祖が大切だと述べている点をまとめる。</li> </ul> </div> <p>①年表より鎌倉新仏教の登場を確認する。</p> <p>②資料1～3を読み自分の考えをプリントに記入。 ※分からない場合は史料集の通釈を参考にする。 →意見発表</p> <p>【資料1】浄土宗 専修念仏 【資料2】浄土真宗 悪人正機説 【資料3】日<small>ち</small>宗 題目：法華経 ※「鎌倉新仏教まとめプリント」へのまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2 日本仏教史年表を使用</li> <li>○資料1～3を使用</li> <li>○どの資料に取り組むかをペアごとに指示。ペアワークで考察。</li> <li>○史料集 p131～134を参考にする。</li> <li>◆資料を通して開祖の教えや宗派の特徴を読み取ることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【技能】</b></p>
開	<p>②鎌倉新仏教 (その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時宗</li> </ul> <p style="text-align: right;">(40分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>Question2 (Main Qesution)</b></p> <p>③資料4 (踊念仏)・5 (念仏札の配布) はそれぞれ何をしているところか？</p> <p>④旧仏教と一遍の教えの異なる点 (特筆すべき点) は何か？資料4～7より読み取る。</p> </div> <p>③資料4・5を見て、自分の考えを述べる。</p> <p>④資料4～7を見て自分の考えをプリントにまとめる。→意見発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一遍は全国を遊行した。踊念仏を通して布教を進め、文字が読めない武士や農民、非人も参加した。</li> <li>一遍の配る念仏札には「決定往生六十万人」と書かれていた。</li> <li>平安時代までの仏教とは違い、国家や貴族のためではなく民衆のすべてを救いの対象とした。</li> <li>易行、選択、専修という諸派共通の特徴を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料4～7を使用</li> <li>○聴覚教材「踊念仏」を聞かせる。</li> <li>○奈良仏教・平安密教と対比させて考えさせる。</li> <li>○2 年表より、民衆が救いを求める社会状況であったことを確認。</li> <li>◆一遍の布教に関する資料から、鎌倉新仏教の社会的・思想的意義を考察することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【思考・判断・表現】</b></p>
ま と め	<p>本時の授業のまとめ</p> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時宗を含めた鎌倉新仏教は、当時最も救いを必要としていた民衆を救いの対象として布教活動を展開するなかで支持を拡大していったことを確認。</li> <li>自己評価・感想を記入し、ワークシートを提出。</li> </ul>	

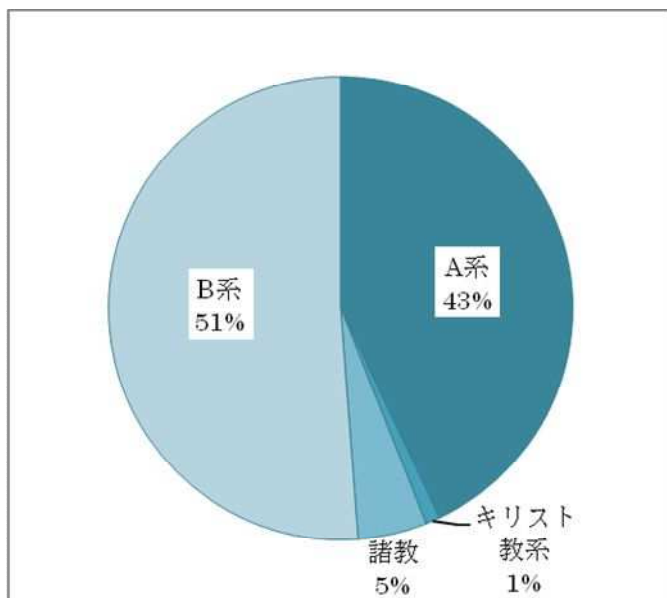
# 生徒への配布物①

日本史B資料プリント

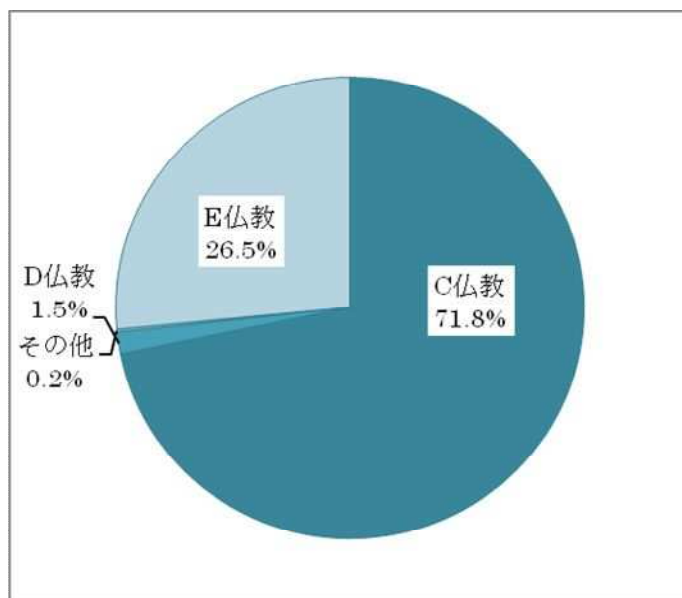
## 鎌倉新仏教

1 宗教に関するグラフ（これは何の円グラフだろうか？）

【グラフ①】



【グラフ②】



【文化庁編「宗教年鑑（平成24年版）」を基に作成】

2 日本仏教史年表（古代～中世）

538	仏教伝来（百済の聖明王より）	1083	後三年合戦（～1087）
607	法隆寺建立		【諸寺僧兵による強訴が盛んになる】
611	厩戸王、「三経義疏」著す	1175	法然、専修念仏を唱える（浄土宗開始）
680	薬師寺建立を發願 → 698 ほぼ完成	1180	治承・寿永の乱（～1185）
701	僧尼令制定		平重衡、南都焼討ち（東大寺・興福寺）
	【南都六宗の形成・発展】	1181	養和の飢饉
717	行基の民間活動を禁止	1191	栄西、宋より帰国（臨済宗開始）
741	国分寺建立の詔	1198	法然、「選択本願念仏集」著す
743	大仏造立の詔 → 752 開眼供養		栄西、「興禅護国論」著す
753	鑑真来日 → 759 唐招提寺建立	1214	京都暴風雨・鎌倉洪水
766	道鏡、法王に就任	1224	親鸞、「教行信証」を著す（浄土真宗開始）
805	最澄、帰国（天台宗開始）	1227	道元、宋より帰国（曹洞宗開始）
806	空海、帰国（真言宗開始）	1231	諸国飢饉
935	承平・天慶の乱（平将門・藤原純友の乱）	1244	道元、「正法眼蔵」著す
938	空也、京で念仏を広める	1253	日心、法華信仰を唱える（日心宗開始）
985	源信、往生要集を著す	1259	諸国飢饉
1019	刀伊の入寇（女真族の襲撃）	1260	日心、「立正安国論」著す
1051	前九年合戦（～1062）	1274	蒙古襲来（文永の役）
1052	末法到来の年「末法思想より」		一遍、念仏を広める（時宗開始）
1053	藤原頼通、平等院鳳凰堂を建立	1281	蒙古襲来（弘安の役）

### 3 鎌倉新仏教

(各宗派の開祖は何が大切だと述べているか)

2年

#### 【資料1】「一枚起請文」→まとめプリント①

※1 (朝) もろこし我がてうに、もろもろの智者達のさたし申さるゝ、観念の念にも非ず。又学文をして念の心を悟りて申念仏にも非ず。たゞ往生極楽のためには、南無阿弥陀仏と申て、疑なく往生するぞと思とりて、甲外には別の子さい候はず。……念仏を信ぜん人は、たとひ一代の法を能々学すとも、一文不知の愚とんの身になして尼入道の無ちのともがらに同して、ちしやのふるまいをせずして、只一かうに念仏すべし。

- ※1もろこし…唐土、中国のこと ※2さた…沙汰、知らせ ※3観念の念…目を閉じて仏の世界を観想する念仏  
 ※4思とり…思い込んで ※5子細…理由・手段 ※6一代の法…釈迦一代の法 ※7身になして…身になりきって  
 ※8無ちのともがら…無智の仲間 ※9ちしや…智者 ※10 只一かうに…ひたすら

#### 【資料2】「歎異抄」→まとめプリント②

善人なほもつて往生を遂ぐ、況んや悪人をや。しかるを、世の人、常に言はく、「悪人なほ往生す。いかに況んや善人をや」と。この条、一旦、その言はれあるに似たれども、本願・他方の意趣に背けり。その故は、自力作善の人は、偏へに他力を頼む心欠けたるあひだ、弥陀の本願にあらず。しかれども、自力のこゝろをひるがへして、他力をたのみたてまつれば、真実報土の往生をとぐるなり。煩惱具足のわれらはいづれの行にても、生死をはなるゝことあるべからざるを憐れみ給ひて、願を起し給ふ本意、悪人成仏のためなれば、他力を頼み奉る悪人、もつとも往生の正因なり。よつて「善人だにこそ往生すれ、まして悪人は」と仰せ候ひき。

- ※1善人…善行を積んで成仏しようとする人  
 ※2悪人…善行を積んで成仏する能力に欠けていると自覚する人、自分の悪行を自覚する人 ※3一旦…一応 ※4言はれ…理由  
 ※5本願・他力…ひたすら弥陀の本願を信ずる ※6意趣…教えの赴き ※7自力作善の人…自分の修行・努力によって救われると信ずる人  
 ※8真実報土…真実の本願に報われた報土 ※9煩惱具足…ありとあらゆる迷いにつきまわられている  
 ※10悪人成仏…悪人が浄土で救われる ※11もつとも…もつとも ※12正因…正しい原因

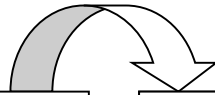
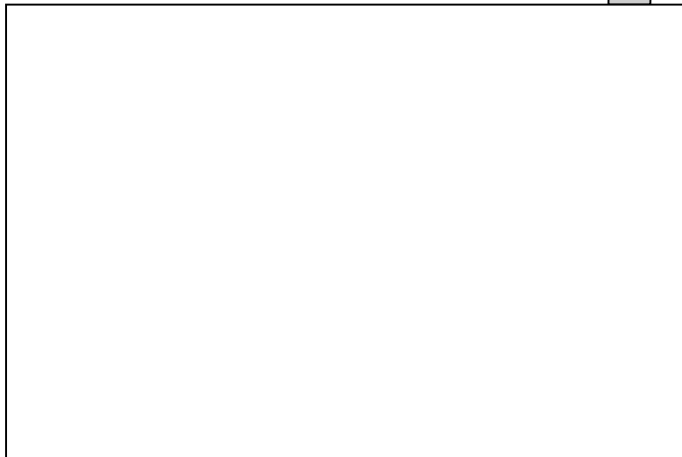
#### 【資料3】「立正安国論」→まとめプリント④

もし、先ず国土を安んじて、現当を祈らんと欲せば、速かに情慮を廻らし、いそいで対治を加えよ。所以は何ん。薬師經の七難の内、五難忽ちに起り、二難猶残せり。所以、他国侵逼の難、自界叛逆の難なり。大集經の三災の内、二災早く顕われ、一災未だ起らず。所以兵革の災なり。……仁王經の七難の内、六難今盛んにして一難未だ現ぜず。所以、四方の賊来りて国を侵すの難なり。……悲しいかな数十年の間百千万の人魔縁に蕩かされて、多く仏教に迷えり。傍を好んで正を忘る、善神怒を為さざらんや。円を捨てて偏を好む悪鬼便りを得ざらんや。如かず彼の万祈を修せんよりは此の一凶を禁ぜんには。

(災難を根絶するには、あのような数多くの祈りを行うよりも、この一凶を禁じるに勝るものはない)

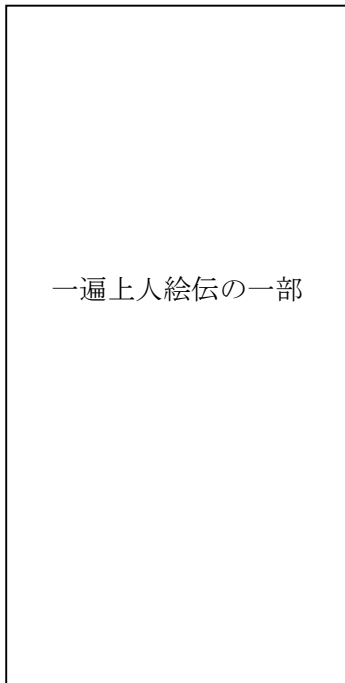
- ※1現当…現世と来世 ※2情慮…深い考え ※3対治…煩惱や怠惰な心を絶つこと  
 ※4七難…薬師經に、人々が疾病にかかる難以下七つの災難があげられている ※5侵逼…侵略 ※6自界叛逆…国内に謀叛が起こる  
 ※7三災…飢饉・兵革・疾病の災難 ※8兵革の災…戦争の災難 ※9魔縁…悪神・悪魔  
 ※10傍を好んで正を忘る…傍法の念仏を好んで正法の法華經を忘れる ※11円を捨てて偏を好む…円満な法華經を捨てて偏頗な念仏を好む

【資料4】『一遍上人絵伝』より



これは何をしているのか？

【資料5】



【資料6】一遍の足跡を辿る



【資料7】奈良仏教・平安密教について

律令制が確立すると、次第に増えてきた僧尼を取り締まる法令がつくられるほどであった。この僧尼令は、政府が僧尼の宗教活動を制限して民衆との触れ合いを止め、また僧尼の生活上に多くの禁止事項を設けて、政府の統制のもとに僧尼を縛ろうとするものであった。(中略)しかし統制は厳しくとも、僧尼の身分や生活は国家から保証されており、僧尼は国家の安泰を祈って『金光明経』などの護国経典を読んだり、写したりすることを任としていた。(中略)政府は僧尼に仏教の研究を奨励し、寺院ごとにつくられていた学問集団を組織化したもので、いわゆる南都六宗(三論・成実・法相・俱舍・華嚴・律)に整えられた。(中略)

これら(天台宗・真言宗)両宗は、従来の宗が国家の管理下にある学問研究の集団であったのに対して、自主的に運営される独立した教団であった。また信仰による救済をめざす実践的な大乘仏教であるから、より広い支持が得られた。(中略)もちろん国の宝となり、師となり、鎮護国家を祈ることは、この時代の仏教者としての使命である。しかし新興階級である貴族が勢力を得てくると、僧は個人のために祈禱することも、求められるようになった。(中略)一方、密教の隆盛によって寺院は財力を蓄え、貴族と結んで勢力を伸ばしたが、そのために世俗化が進んだ。

【瀬戸内寂聴編『「仏」の教えがわかる小辞典 仏教ハンドブック』より抜粋】

4 一遍の教えはそれまでの仏教と何が違うのか？（特筆すべき点は何か？）

【まとめ】

【本日の授業】

(できた)

(できない)

(1) 意欲的に授業に参加することができた

A ・ B ・ C

(2) 資料から必要な情報を読み取ることができた

A ・ B ・ C

(3) なぜ鎌倉新仏教が多くの人に支持されたのか理解することができた

A ・ B ・ C

【感想】



## 生徒への配布物②

### 鎌倉新仏教まとめプリント

【資料】1～4を見て、各宗派の教えをまとめよう

宗派	開祖	中心寺院	教えの特徴
①		知恩院 (京都)	
②		本願寺 (京都)	
③		清浄光寺 (神奈川)	
④		久遠寺 (山梨)	
⑤		建仁寺 (京都)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坐禅を組み、[ ] を考え抜いて悟りに達する [=公案問答]</li> <li>・幕府の保護→ <b>北条時頼、蘭溪道隆</b>を鎌倉に招き、<b>建長寺</b>建立 <b>北条時宗、無学祖元</b>を鎌倉に招き、<b>円覚寺</b>建立</li> </ul>
⑥		永平寺 (福井)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただひたすらに坐禅を組む [= ]</li> </ul>

# 授業後の事後分析(反省・課題)

## 1. 授業者による分析

### ■「資料活用の技能」向上について

- ・文章史料、グラフ、年表、地図、絵画、聴覚教材など様々な資料を用いて、生徒の資料活用能力の向上をはかり、興味関心を高めることができた。一遍の布教を通して鎌倉新仏教の思想的・社会的意義を帰納的に考察することができた生徒が4分の1程度おり、諸資料からしっかりと必要な情報を読み取り考察することができる生徒の増加を感じることができた。
- ・導入で現代の仏教に関するグラフを用いることで、鎌倉新仏教の意義や重要性を現代とのつながりを意識させて、考察させることができた。
- ・文献や書籍などの資料の読み取りについて、苦手意識を持っている生徒が少なからずいるが、ペアワークを導入したことで、友人と相談しながら意欲的に学習できたようである。
- ・文章史料(資料1～3)から各宗派の特徴を読み取る活動では、時間の関係上重要だと思うところに下線を引かせるにとどまったが、文章で自分の考えをまとめさせられるとよかった。

### ■その他反省と課題

- ・様々な活動をさせたい、また進度を落とさず鎌倉新仏教を一通り扱いたいという思いから、一時間の授業に活動を盛り込み過ぎてしまった。生徒につけさせたい力を明確にし、授業内容をより精選して、無理のない展開を心掛けていきたい。
- ・生徒の思考や考察を深めるために、より鋭い発問を設定・工夫する必要がある。

## 2. 参観者による講評

### ■「資料活用の技能」向上について

- ・導入から資料を用いて意外性や新しい気付きを生徒に与えていた。今回は、現代の仏教信者数の割合を用いていたが、例えば鎌倉新仏教の興隆後の仏教信者数の増加を示すグラフなどがあれば、展開がよりスムーズになる。
- ・資料4(踊念仏)が見にくかったので、教科書や図説に載っているのであれば、そちらを確認させるとよかった。
- ・資料活用に重点を置くのであれば、各資料を読み込む時間を十分に設定する必要がある。また、生徒の言葉によってまとめさせられるとよかった。
- ・聴覚教材「踊念仏」など興味深い教材などを用いて、生徒の興味関心を引き出していた。
- ・ペアワークにより、生徒はお互い相談しながら意欲的に資料の読み取りに取り組んでいた。各自・ペア・グループなど、発問に対して最も効果的な学習形態を吟味して設定していけるとよい。

### ■その他

- ・生徒が分からない時にヒントを上手に与えるなど、生徒とのコミュニケーションがよくとれており、生徒の意見を上手く引き出していた。
- ・生徒が勉強する意味を感じながら授業を受けており、発問に対して真剣に取り組んでいた。
- ・栄西は臨済宗という新しい宗教を広めようと布教をしていたわけではなく、あくまで天台宗の僧として坐禅を伝え、後世になって臨済宗の開祖と仰がれたのである。鎌倉新仏教の扱いは難しいので、もう少し丁寧に内容を扱う必要がある。
- ・「自分ならどの鎌倉新仏教のどの宗派を選択するか」という発問は、生徒のプライバシーに関わってくるので、「鎌倉新仏教が広く受け入れられた理由を、一つの宗派をあげて説明しなさい」という形に変えた方がよい。また、展開の都合上、次回の授業でまとめの形で設定するとよい。

# 生徒の提出物

(生徒のワークシートより)

## ■本時のMQ (資料4～7を見て考察)

一遍の教えはそれまでの仏教と何が違うのか? (特筆すべき点は何か?) → 【思考・判断・表現】

### 1. 各資料から生徒に読み取らせたいこと

資料番号	資料内容	生徒に読み取らせたいこと
資料4	踊念仏 「一遍上人絵伝」	・踊念仏の様子から、誰でも簡単にできる内容(易行)で教えを広めたことを読み取る。 ・貴族から庶民まで様々な人たちが集まっている様子から、貴賤貧富の差なくすべての人が救済対象であったことを読み取る。
資料5	念仏札の配布 「一遍上人絵伝」	・念仏札の配布に様々な人たちが集まっている様子から、貴賤貧富の差なくすべての人が救済の対象であったことを読み取る。
資料6	地図「一遍遊行の旅」 『もっと知りたい日本の名僧』p99	・一遍の遊行の足跡を地図から辿り、日本全国を回って積極的に布教をしたことを読み取る。また、一遍の念仏札「決定往生六十万人」文字の意味と積極的な遊行から、日本全国のすべての人を救済しようとしていたであろうことを読み取る。
資料7	奈良仏教・平安密教の特徴 『「仏」の教えがわかる小辞典 仏教ハンドブック』より	・奈良仏教は主に、国家のための祈禱や学問研究を、平安密教は主に国家や貴族のための祈禱を行い、庶民を救済の対象としていなかったことを読み取る。

### 2. 評価の規準

A	奈良仏教・平安密教との比較を通して、一遍の教えの特徴を各資料や授業内容を参考にまとめることができたもの
B	奈良仏教・平安密教については触れられていないが、一遍の教えの特徴を各資料や授業内容を参考にまとめることができたもの
C	一遍の教えの特徴がまとめられていないもの(空欄や他宗派の内容の記述など)

### 3. 生徒の解答(抜粋)

<ul style="list-style-type: none"><li>・強制されるところがない</li><li>・楽しそう、親しみやすい</li><li>・誰でも簡単にできる</li><li>・踊りながら唱えるだけで往生できる(平安時代は山の中で修行をして大変だった)</li><li>・信じていなくても努力をしていなくても救われる</li><li>・すべての人が救済の対象(庶民、文字が読めない人、社会的弱者)、差別がない</li><li>・積極的に自分から多くの人へ布教を行った</li><li>・全国各地をまわって教えを広めようとした</li><li>・民衆とより深くかかわりを持とうとしている</li></ul>
---

■生徒の自己評価

1. 授業についての自己評価

評価項目	A	B	C
1. 意欲的に授業に参加することができた	3 8	2	0
2. 資料から必要な情報を読み取ることができた	1 3	2 7	0
3. なぜ鎌倉新仏教が多くの人に支持されたのか理解することができた	3 6	4	0

2. 授業の感想 (抜粋)

<p>【授業内容に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉時代の仏教は、それまでの仏教との差が大きくてびっくりしました。現在でも続いているものばかりで、開祖たちの考えはすごいなと思いました。</li> <li>・鎌倉時代の僧たちは、庶民のことを思って宗教を開き、信仰できるものを与えたので素晴らしいと思った。現代まで支持されている理由が分かった。</li> </ul>
<p>【資料活用に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか自分で資料の読み取りができなかったけど、鎌倉の仏教の宗派や特徴、奈良・平安の仏教との違いなどを理解することができた。</li> <li>・分かりにくかった宗教のことを詳しく知ることができました。資料から読み取るのはやっぱり苦手やけど、少しでもコツをつかんでできるようにしていきたいと思いました。</li> </ul>
<p>【授業展開・形態に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えながら授業を受けることができた。</li> <li>・教え合いをしながら、考えることができたので、より理解することができました。</li> </ul>

■実際の生徒の記述

【MQの記述】

<p>3 一遍の教えはそれまでの仏教と何が違うのか？ (特筆すべき点は何か?)</p> <p>今までは、その宗派を信じている人だけが「往生できるもの」だったけれど、一遍は、たれもが「念仏を唱えれば救われる」という。違い。親しみやすい。簡単にできる。→おれの人か救済の対象</p> <p>「苦地 信不信にかかわらず」 奈良仏教→学問、国家のため          ・平安密教→国家や貴族のため (庶民は「救済」を求めていた)          大寺が「読めたい」</p>
--

【自己評価感想の記述】

<p>【感想】</p> <p>鎌倉仏教の教えは、おれの人か救済の対象であったため、長い間おれの人か救済された人か理解した。当時は現在おれも身分の差が激しく、庶民は苦しんでいたため、誰でも信仰できる。一遍の教えは、おれ当分の人かおれ。大事なおれに、おれ。</p>
--

## 鎌倉新仏教の単元における考査問題例

問1 資料1は親鸞の教えについての記述である。これを読んで、なぜ親鸞は下線Xのように考えるのか、その理由を下の文章の空欄に適する形で答えよ。 【資料活用の技能】

### 【資料1】

X 善人<sup>※1</sup>なほもつて往生<sup>※2</sup>を遂ぐ、況んや悪人<sup>※2</sup>をや。しかるを、世の人、常に言はく、「悪人なほ往生す。いかに況んや善人をや」と。この条、一旦<sup>※3</sup>、その言はれあるに似たれども、本願<sup>※4</sup>・他方<sup>※5</sup>の意趣<sup>※6</sup>に背けり。その故は、自力作善<sup>※7</sup>の人は、偏へに他力を頼む心欠けたるあひだ、弥陀の本願にあらず。しかれども、自力のころをひるがへして、他力をたのみたてまつれば、真実報土<sup>※8</sup>の往生をとぐるなり。煩惱具足<sup>※9</sup>のわれらはいづれの行にても、生死をはなることあるべからざるを憐れみ給ひて、願を起し給ふ本意、悪人成仏<sup>※10</sup>のためなれば、他力を頼み奉る悪人、もつとも往生の正因<sup>※11</sup>なり。よつて「善人だにこそ往生すれ、まして悪人は」と仰せ候ひき。

※1善人…善行を積んで成仏しようとする人

※2悪人…善行を積んで成仏する能力に欠けていると自覚する人、自分の悪行を自覚する人 ※3一旦…一応 ※4言はれ…理由

※5本願・他力…ひたすら弥陀の本願を信ずる ※6意趣…教えの赴き ※7自力作善の人…自分の修行・努力によって救われると信ずる人

※8真実報土…真実の本願に報われた報土 ※9煩惱具足…ありとあらゆる迷いにつきまとわれている

※9悪人成仏…悪人が浄土で救われる ※11もつとも…もつとも ※12正因…正しい原因

親鸞は、( ) する善人ではなく、  
( ) する悪人こそ、  
阿弥陀仏が本当に救おうとしたものだと考えたから。

問2 資料2のように、一遍は踊念仏を通して布教を行ったが、踊念仏を行うことはどのような意義があると考えられるか。次の文章の空欄に適する形で答えよ。 【思考・判断・表現】

### 【資料2】

『一遍上人絵伝』より

踊りながら念仏を唱える「踊念仏」は ( ) ので、  
( ) に信仰の道を開いた。

問3 鎌倉時代に生まれた仏教宗派の中から1つ選び、レポートにまとめる課題が出た場合、どの宗派を選ぶか。非念仏系の三宗派から1つ選んで、宗派名を答えよ。また、その宗派のどのような点に興味関心を持ったのか、理由も答えよ。 【関心・意欲・態度】